

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2794100020		
法人名	関西物流株式会社		
事業所名	グループホームアクセス北梅田		
所在地	大阪市北区本庄西1-9-12朝日プラザ2F		
自己評価作成日	平成 25年 6月 25日	評価結果市町村受理日	平成 25年 11月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2794100020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2794100020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 9月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・明るく笑顔の絶えない施設。・広々とした共有スペース。</p>
------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>駅から徒歩5分という交通の便のよい立地条件に建てられた、10階建てビルの2階にあるグループホームです。事業所の名前のアクセスの名称には『Always Smile Enjoy Space』いつも 笑顔で 楽しい空間』という想いが込められ、管理者や職員は、常に利用者の喜ぶ姿・笑顔がみたいとの想いで暮らしを支えています。「利用者の暮らしを豊かにしていこう」という職員の創意が尊重され、意見が出しやすい職場環境は、ホーム全体の穏やかな雰囲気を創りだしています。利用者を大切に思う気持ちが、介護を通して表現している日常のケアにより、利用者は活き活きとした表情で過ごしています。「職員は本当によくやってくれます」と誇らしく語る管理者の言葉に、さらなるサービスの向上が期待できるホームです。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アセスの運営理念を明示し、常に意識して日々の職務に活かせる様、努力している。	事業所の名前のアセスの名称には「『Always Smile Enjoy Space』いつも笑顔で楽しい空間」という想いが込められ、管理者や職員は、常に利用者の喜ぶ姿・笑顔がみたいとの想いで暮らしを支えています。	管理者・職員は理念を共有し、意識してケアにあたっています。今後は更に、家族や地域住民にも理念を理解・支持されるよう、意図した取り組みが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物は近隣を利用している。町内会に入り、町内行事には出来るだけ参加出来る様努めている。	町内会に入り、地域の行事には積極的に参加しています。今年も区民センターで開催される敬老会に、参加する予定をしています。コーラス・オカリナ・歌体操・ギター等のボランティアは、利用者の暮らしに潤いを与えています。年に3回、近隣の幼児教室の子ども達がホームを訪問しており、利用者も楽しみにしています。利用者と毎週通う近隣の喫茶店に、ホーム専用席を設けてもらうなどの関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	北区の認知症の会等には出来るだけ参加し、交流の機会を持つ様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの方、他のグループホームの方にも御参加頂き、色々なアドバイスを当施設運営に活かしている。	家族会、自治会長、元家族、地域包括支援センター職員、地域のグループホーム職員の参加により、2ヵ月に1回開催しています。利用者の生活状況が見えるフロア内で行っています。会議では、事業所から利用者の状況、サービスの状況を報告し、感想や助言をもらっています。家族代表からは、意見や要望を聞きとり、運営に反映しています。会議でのアドバイスにより、傾聴ボランティアに来てもらうことができました。地域包括支援センター職員からは、福祉行政の動き等を聞かせてもらっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括、社会福祉協議会、ボランティアビューローの担当者から情報も取り入れ、出来る事があれば協力させて頂いている。	区役所内にあるボランティアセンターとも、密に連携をとっています。地域でのふれあいフェスタには、職員が設営から片づけまで参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束とはどのようなことを言うのかを正しく理解してケアを行っている。(玄関の施錠に関しては、入居者の安全の為、現段階では他の方法が見つからず行っています。)</p>	<p>身体拘束や虐待に関する研修を実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。管理者は、職員がストレスを抱え込まないように、職場環境を築く配慮をしています。ホーム入口は開錠していますが、エレベーターは暗証番号が随時変化するため、利用者が自身で開けることは困難な状況です。現在、家族の同意を得て、利用者の安全面に考慮し、夜間のみベッド柵を4本で対応する利用者がいます。</p>	<p>今後は、安全の確保に努めながら、身体拘束を行わないケアを検討することが望まれます。また、施錠についても、利用者の心境を職員間で検討することが期待されます。</p>
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会も行い、スタッフ全員が虐待に対する知識を持って、日々の業務を行うよう努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者に後見人制度を利用されている方もおられるので、スタッフも勉強の場を持ち、家族の相談にもものれる様に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前(見学時)及び契約時に十分な説明の時間を持つ様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けている。 玄関に御意見箱を設け、家族の意見を吸い上げる様にしている。	サービス向上に活かすべく、年に1回は家族会を開催し、参加を呼びかけています。玄関に意見箱を設置したり、面会時には職員から声をかけて積極的に意見を聞いています。また、ホームでの生活状況が伝わる写真入りの「アセスだより」を毎月発行し、家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回社内会議を設け、スタッフの意見を上層部へ伝える様にしている。	毎月の「社内会議」では、幹部職員が事業運営について話し合っています。職員は3グループ制で「カンファレンス会議」を毎月実施し、カンファレンスと業務伝達会議を検討する場となっています。職員は積極的に発言し、管理者は日ごろから職員とコミュニケーションを十分とっており、理念である「笑顔絶やさない」達成に向けて管理者、職員が共に実践しています。職員は、先輩職員の後姿から学べることを誇りにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内会議では必ずスタッフの現況を報告している。 低額ではあるが、個々の努力に応じ、ベースアップを実施している。 サービス残業はさせない。 業務担当を持つことにより、やる気を持ってもらう様に努めている。		
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせて社外研修を受講させている。 各資格を取る為の協力は惜しまない。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区の外施設と運営推進会議への出席などの機会を持ち、意見交換などの場を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時に充分要望を聞き、御本人の望んでおられる事を理解しておく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から本人の状態を詳しく聞く。 (本人の現在までの生活歴・家族歴など) 家族の要望も詳しく聞き、不安を取り除くよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話しを聞きその上で必要があれば他のサービスの導入も説明する。 (PT・訪看・訪問歯科・マッサージ等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に対等の立場である事を忘れずに接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アセス便りで毎月の行事を知らせ、家族も共に参加し、一緒の時間を過ごして頂ける様声かけをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時よりどなたが訪ねて頂いても構わないことをお伝えしている。	家族、職員と近所にある馴染みの喫茶店に週1回は出かけたり、以前住んでいた近所の知人の面会が定期的にある等、関係が途切れないように支援しています。入居後のボランティアとの新しい関係も大切に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お友達が作れる様にさりげない声かけの実行及び孤独にならない様にスタッフが気を配り声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居理由(死亡・入院)により関係継続は難しいが、気軽に訪ねて下さる雰囲気である様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握が可能な限り、希望・意向に添える様努めている。	アセスメント表に利用者一人ひとりの希望や意向を記載しています。日々のケアや気付きは申し送りノートや介護日誌に記入しています。スタッフルーム内に大きなボードを設置し、利用者のケアを職員間で共有し、実践するツールとして活用しています。また、ボードに記載されたものは、申し送りノートや介護日誌に記入しています。	日々の支援の中で。気づき等を記録に残し、職員間で共有しています。今後はさらに、その人らしい支援ができるよう、記録等を活用することが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント情報、日々の会話からの情報をスタッフが共有を出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフが得た情報を全スタッフが周知出来る様、日々心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来訪の折には現状の報告を常に行い、担当チームに意見及び希望を報告、月1回のカンファレンスに反映する様にし、必要な時にはその都度見直しを行っている。	利用者、家族より聞き取ったアセスメントにより、介護計画を作成しています。3カ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直します。モニタリングは毎月実施し、カンファレンス会議で話し合っています。会議計画は全職員で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護日誌や申し送りノートに記録を行いスタッフに伝達している。 又、その記録を参考にして、カンファレンスにて話し合いを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その状況、ニーズに柔軟に対応し、早急に取り組む様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かし、一人、ひとりが充実した楽しい生活を送れる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医もいるが、本人の希望があればその都度他の医療機関での受診を受けられる様な体制を取っている。	入居前からかかりつけの医療機関には、利用者や家族の希望で受診しています。月1回の往診も定期的であり、ホームの主治医には毎週来てもらっています。訪問看護師との連携もとれる体制で、緊急時には対応してもらいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約しており、その都度現状の報告をし、今後の対応を話し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には、定期的に病院に出向き、家族・病院関係者と話しをし、受け入れ体勢をととのえる様に情報交換を密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>基本看取りは行う方向ではない(医療体制上)事は入居時に話しはしているが、その時の状況により、家人・医師との話し合う場を設けている。</p>	<p>「特別な医療や、常時医療機関で治療が必要でない方」を利用者の入居条件とし、基本看取りは行わない方向を、契約の際に本人や家族に説明をしています。家族の希望で終末期に近い利用者も対応している現状です。</p>	<p>利用者の重度化に安全・安楽に対応できるため、職員間で意見を出し合い、対応マニュアルを整備されてはいかがでしょうか。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応、事故発生時の対応についてはマニュアルを作成してスタッフが慌てる事のない様に備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災に関しては、スプリンクラーの設置、消火器の取り扱い等、年2回の避難訓練を行っている。</p>	<p>年2回の避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力のもと実施しています。スプリンクラーは設置され、非常口もすぐに開けられる状態です。火災の可能性となるコンセントの埃についても、専任の清掃職員が定期的に清掃しています。非常時の水や食料も準備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場である事を留意した上で出来る限り一人ひとりの人格の尊重に心掛けている。	管理者は、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、入浴や排泄介助時はプライバシーに配慮して実施するよう、職員に具体的に伝えています。接遇の研修では、マナーやモラルについて学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の許せる範囲の中ではあるが、出来るだけ本人の思いを聞き出す様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三度の食事やおやつなどの時間以外は自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で衣服を選んで着て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には食事作りの手伝い、洗い物など手伝ってもらう様に声をかけてしている。	朝・夕食はホームで作り、昼食は仕出し弁当を配達してもらっています。ご飯はホームで炊いています。利用者の嚥下状態に合わせ、きざみ食やミキサー食を作っています。調理専任の職員を配置し、利用者が食事を楽しんでくれる支援体制です。介助が必要な利用者が多い中、職員は一人ひとりのペースに合わせて介助を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量・水分量は確認している。 個々の食べられる量に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・朝・就寝前は出来る方には声をかけを行い、出来ない方にはスタッフが口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて、対応している。 (排泄を忘れていてもトイレに誘導し、排泄が出来る様に支援している。)	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの排泄リズムに合わせた介助を行っています。立位の困難な利用者には2人で介助します。こまめに誘導し、オムツからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツに変った利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確認。 (最低 1000ccを確保) 繊維質の多い食物を摂取して頂くよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴出来る方がおられないので、声かけ誘導、介助して入浴して頂いている。	1週間に2～3回の入浴日を設けています。入浴日以外でも希望があれば入浴できます。重度な利用者が多いので、安全を最優先して介助しています。朝晩の更衣の際には清拭し、清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一応就寝時間は設けているが、その時と場合により、個々の自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・看護師と連携し、常に確認を怠らない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い等は出来るだけ手伝って頂くように声かけをし、役割として行って頂く様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力して頂き、外出(散歩程度でも)する機会を持つよう声かけを行っている。 地域の行事には出来るだけ参加して行く。	買い物や喫茶店、地域の行事への参加等、外出の機会を増やす工夫をしています。外出の機会を増やすことをホームの課題として、今後もスタッフ間で検討する予定をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かっている事は伝えているが、個々が直接所持し使用する事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を掛けたいとの申し出があればいつでも対応している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の温度・光などは常に気を配っている。	2ユニットが隣同士で、利用者はユニット間を自由に行き来できます。食事スペース以外にもくつろげるスペースがあり、利用者は思い思いに好きな場所で過ごしています。安全・快適な生活のために、清潔にも心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東・西町共に居間を設け、他の入居者との団欒の場になるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に各居室のレイアウトは御家族・本人に任せている。	利用者は、使い慣れた家具や大切にしている家族の写真、仏壇等を持ち込み、個性のある居室になっています。畳の部屋が安心できる利用者には、畳を敷いています。家族の協力も得ながら、より居心地よく過ごせる居室作りを目指しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分ができる事は自分で行って頂く。出過ぎた介護にならない様に気をつけている。		